

掲示板のことば

市民

ひとりひとりの

活動が

誰かの

「お薬」に

なります

『社会的処方』より

2025. 02

この言葉は、西智弘さんという医師が編集している『社会的処方』という本に記されています。

「社会的処方」は、1980年代にイギリスでその活動が始まったそうです。日本では2020年の政府「骨太の方針」に「社会的処方」が明記されています。

先の『社会的処方』には、「社会的処方とは孤立という病を地域のつながりで治す方法」だとして、このように書かれています。

たとえばころやからだの調子が悪くて病院に行くとしましょう。診察を終えた患者さんは「この薬飲んでね」と、かかりつけのお医者さんから処方せんを受け取りますね。このとき薬だけではなく、体操や音楽、ボランティアなど、地域のサークル活動を紹介されたらどうでしょう？

薬と同じように社会とのつながりを処方するから社会的処方。

医療機関に持ち込まれる問題の2～3割は社会的な問題と言われています。それを解決していく「社会的処方」。市民ひとりひとりの活動が誰かの「お薬」になります。

お寺のカフェにお見えになっている90代の方で、最初はお近所の方に付き添われていらしてましたが、しばらくするとお一人で来られるようになりました。夜に熟睡できないとおっしゃっていた方が、太極拳のサークルに参加するようになったらよく眠れるようになったというお話もお聞きしました。

確かに、つながることで元気になられた方はいらっしますね。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹